

算命中庸

【初年】 66 回目

66 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺の心得】（4）

【初年】の課程・最後の無料授業です。

・【初年】 66 回目【天中殺の心得（4）】 01

⇒ 天中殺とは「自分の運勢を調整する時期」です。
天中殺があるおかげで運勢を調整・調節できます。

「自分は宿命から外れて^{はず}いたのでは……」と思っているとすれば『宿命を元へ^{もと}戻そうとするか』あるいは『もっと外れて^{はず}しまう』そのどちらかになります。宿命の流れを調整する必要のない人は、天中殺がまわって来ても^{わざわい}禍はでません。その人物は自分ができ得る^う限りに宿命道理に生きている人です。

天中殺の期間^{きかん}は自分の運勢を調整するという役割的な部分があります。天中殺に入る直前に健康状態が悪くなったとかも、ひとつの過程といえます。

天中殺が来ているのに、新しいことを始めてしまうと、運勢を^{ととの}整えるゆとりがなくなって、面倒な^{じしょう}事象が出てくることにもなります。

〔たとえば〕解決すべき問題がでてくる人もいますし、天中殺が終わってから、やっかいな問題が出てくる人もいます。

天中殺のあいだに、必ず問題が生じるということではありません。そこには時間差があります。

天中殺になる前に問題が出る人。

天中殺に入ってから問題が出る人。

天中殺が終わってから問題が出る人。

このような姿は、
運勢の調整・調節と
考えています。

参考：調整〔ものごとの過不足をなくし、正しい状態にする。〕

参考：調節〔あれこれ方法を尽くし、ちょうどよい状態を保つこと。〕

参考：ゆとり〔当面の必要を満たしたあとに、自由に使える時間。〕

参考：整える〔正しい状態に直す。〕

参考：事象〔いろいろな物事や現象。〕

☞ 物事というのは、縦軸があり、横軸があり……
その中心で物事が行なわれています。

宿命（1）物事

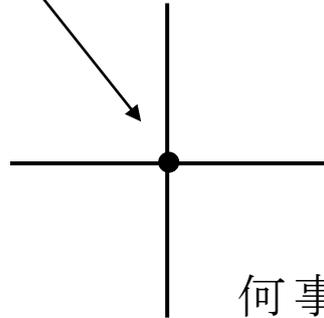


図 1

何事もそうです。

図 1 …上から見たときの図ですが、天中殺の時期というのは、図 2 のように縦軸と横軸の交差がずれています。

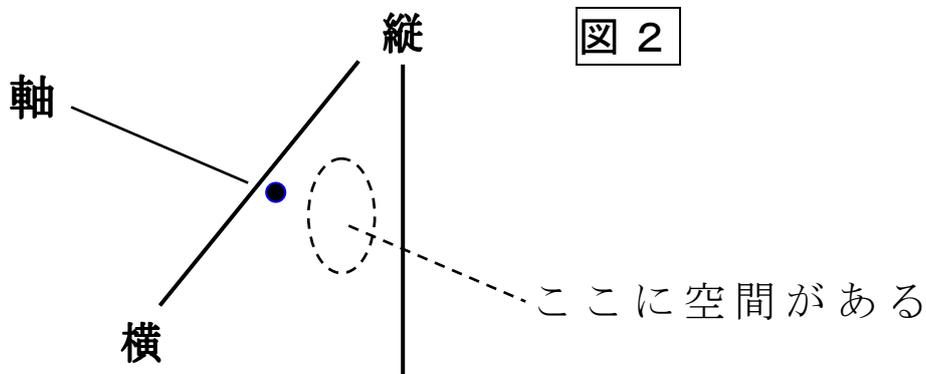


図 2

縦軸と横軸が重なっていないで、^{すきま}隙間が^あ空いているのが図 2 です。（正確に交差していません。）

^ま真正面^{しょうめん}から見ると重なっています。図 1

横から見ると重なっていないで離れています。図 2

これが天中殺の姿です。

真正面から見ると、十字に重なって見えていますが、側面から見ると重なっていません。

それゆえ、やる事・成す事がまとまらないのです。天中殺のときは〔やる事、成す事がまとまっていない〕と理解するとよいでしょう。

まとまっていない天中殺の時期に物事を起こすと、物事がまとまりません。

不自然融合ですから〔1つの整った状態にならない〕〔1つのものとして完成しない〕ということが起こるわけです。

しかし、人間は自分の意志がありますから「天中殺なんて関係ない」として一生懸命やるわけです。

その物事ができたとすれば、自分の肉体と精神に、何十倍もの負担がかかることになります。

（できないとは言い切れません。）

基本的に天中殺で物事を起こせば『物事はまとまらない（不自然=ずれる）』と考えています。

天中殺で起こした事は、望ましい結果に落ち着かない・まとまらなくて当たり前です。

それゆえ「天中殺はまとまりませんよ」と言って

いるのに……自分の努力で天中殺の期間にまとめてしまうと、自身の肉体・精神にその影響を及ぼします。「まとまった」としても、何十倍もの負担を背負って疲れます。

その^{きけつ}帰結として「命を縮めてしまう」ことにもなります。そのように考えています。

参考：帰結〔いろいろな議論・行動などが最後におちつくこと。〕

「なにが天中殺よっ、成功している人もいる」という話は……実際にあります。

算命学は当たらない。と言います。

ところがそうではないのです。

☞ そのとき彼女は見事に成功しました。

天中殺の期間が^す過ぎた^{あと}後も、彼女は人生の^{みち}途を歩んでいます。そこには時間差があります。

確かに……遅い・早い、その違いはあるわけですが、将来において、物事がうまく行かないとか、天中殺の悪い影響が起これると考えています。

彼女の成功の度合いによって〔病気になる〕とか、

ときには〔命を縮める〕ということも起ります。

その人自身に起きなくても、誰かに起ります。

参考：期間〔一定の時期から、ほかの一定の時期までのあいだ。〕

運勢というのは、一点だけに生じるのではないのです。必ず、連続性のなかで起きます。

〔たとえば〕「身体の具合が悪い……」とおもって、病院へ行きました。

検診の結果、医師に「あなたはあくせいしゅよう悪性腫瘍です」と診断されたとします。

そういわれると、自分はいきなりガンになったような気がします。1ヶ月やそこらで悪性腫瘍が形成されたわけではありません。

そうなるには長い時間の経過が存在して、結果的にガンと宣告されたわけです。

〔たとえば〕風邪をひいて、熱がでて、喉や関節に痛みがあっても、その痛みが止まってしまえば、「ああ治った」と思うわけです。ところが実際は治っていないために、再発ということが起ります。

ストレスや喫煙などのへいがい弊害によって、組織細胞が傷めつけられていても、本人に自覚症状がなければ病院へ行きません。また、病院に行っても検査を受けても、なにも出ないことも多々あるわけです。

『気のせいだ』と安心して……^{あくへき}悪癖を繰り返して
いれば、どんどん組織細胞は傷めつけられます。
ついには自然治癒力が限界に達し、退化的症状が
悪化して、細胞がガン化するわけです。

人生は^{せんこうはなび}線香花火のようにパチパチとして、消えて
しまう時間の経過ではないのです。
天中殺に入る前の時間の経過も存在し、生きてい
る限りは、天中殺が終わってからも時間の流れは
続いていきます。

〔たとえば〕「天中殺で結婚しましたが、私たち
離婚していませんし、仲もいいですよ」と、いう
ご夫婦がいたとしても、そのしわ寄せはどこかに
影響しています。

自分たちだけの問題ではなくて、親とか、子供と
かに悪い影響がおよびます。

あるいは、そのご夫婦に子供が生まれないとか、
なにかしらの問題が起こっても当たり前です。
なにも起らないわけではないのです。

参考：しわ寄せ〔矛盾や不都合などを解決しないでほかに押しつける〕

それゆえ「私たちとても夫婦仲がいいの」という

言葉だけで判断はできません。

どこかに現象がでてきます。

⇒ 物事を始めるということでは、天中殺のときに新しい事を始めるとどうなるのか……という話にもなるわけです。

天中殺は物事をまとめることが出来ない時期ですから、〔まとめる必要がない事柄〕あるいは〔決まりをつけなくてもよい事柄〕であれば、始めてもよいし、やってもよいということになります。

言い換えれば〔やった事柄の結果を見る必要がない〕ことであれば構いません。

（しかし無理して始めることはないですよ。）

参考：事柄〔ことの内容。ことの有様〕

参考：物事〔思考・行動の対象になるすべて〕

〔たとえば〕初めて絵を描き^かはじめたとします。まとめる必要がないという意味は、それを販売するとか、展示会で発表するとかの目的・行動をもたないで、自分だけの価値観の世界にいる限りは、天中殺で始めても構わないのです。

〔たとえば〕旅行に行くにしても、なにか物事に目的をもつことなく〔疲れたから気分転換で2～3日旅行する〕というのであれば結構です。

自分を忙しさから解放することで、気分をさわやかにして、精神・肉体の元気を取り戻すためということなら構いません。

つまり、その旅行によって、運勢を調整・調節するのであれば構いません。

☞ なにか仕事を始める……？

“始める”これはなにか新しい物事をはじめるという意味です。

新しく始めた仕事が、自分の生涯を左右するようなことであれば——始めてはいけません。

〔たとえば〕大手の会社に入社しても、その会社にそんぞく存続して仕事をすることなら、天中殺で入社するのは止めたほうがよいです。

一流会社であろうと、三流であろうと、天中殺でその会社に就職したという場合には、その仕事を定年まで勤続することは難しいです。

どういう意味なのかといえは……会社に就職しました。その後〔会社から辞めてくれ〕と言われたのであれば、そのわざわい禍は相手から受けたものですから、会社を辞めればよいのです。

あるいは、自分が身体を壊してしまい、結果的に辞めるような事態になることも起り得ます。

〔会社から辞めてくれ〕と言われるのか、あるいは、〔自分が身体を壊して結果的に挫折する〕という現象なのか、具体的にどのような事態が起こるのか、それはわかりません。

そうしますと、天中殺の ^{わざわい}禍 ^{かいひ}を回避するにはどうすればよいのかということになります。

「その勤務先に定年まで勤続する気持ちがないのなら、入社してもよいのでしょうか？」ということになりますね。2～3年で辞めるのであればよいでしょう。しかし、15～20年も会社に在籍していて、長期間に渡って仕事をやるのであれば、一時的な腰掛け仕事とはいえません。

「天中殺で新しい仕事を始めました」という事実は、人生の変化過程として ^{きざ}刻まれます。

このたびは「天中殺でない時期に物事を始めました」ということであっても、以前に天中殺で物事を始めているという事実があれば、人生の過程で刻印されています。それゆえつぎの仕事がうまくいかなくなってしまう。ということが起こります。

「たとえば」「天中殺で結婚しました」そして離婚しました。今度は『天中殺でないときに結婚しました』そのようにしても、最初に天中殺で結婚した事実は、その人物の人生の歴史に残っています。

それゆえ『2度目の結婚は天中殺でないときです』と

言っても、その2度目の結婚は自分が描くように順調にはいきません。

それは人生の過程において『結婚』というテーマでつながっているからです。

それなら、相手が変わればいいじゃない。ということになるわけです。

しかし、自分の人生の生き様において「以前に天中殺で結婚して離婚した」その^{こくいん}刻印が残っています。

天中殺で結婚しても離婚しても、人生の記録として、^{せんざいいしき}潜在意識に^{しる}記されているのです。

「今度は天中殺の時期を全部はずしたからうまくゆく」
そう思うのは勝ってですが、そうはいきません。

そのことからして……、

〔天中殺ではないときに、結婚した人〕

〔天中殺ではないときに、離婚した人〕

〔天中殺のときに、結婚した人〕

〔天中殺のときに、離婚した人〕

これらの人たちの人生の内容は異なります。

☞ 天中殺で〔起きた・起きる〕さまざまな事象に取り組むには……。

20 代、40 代 50 代という年代の経過のなかには、人生における過去の歴史が存在します。

過去に起きた事象の部分を取り除いてしまうと
現在の自分は存在しません。
潜在意識に刻印された過去の事象は永久に残ります。
霊魂にも残存します。

天中殺で病気を患ったのであれば、それは後遺症として残っています。

現在はなんともなくても、必ず後遺症として残ります。

〔たとえば〕大学に入れば天中殺であろうと専攻した課程を学びます。

その課程の専門分野は、自分の生涯にわたって、目的を達せられないと考えています。

つまり、その学問を自分の生涯の仕事としてできないわけです。

〔たとえば〕 大学を卒業するとき天中殺に入っていれば、仕事を始める時期も天中殺でしょう。運が悪いといえますが、そのような状況のときには、時期を外^{はず}すことをお^{すす}勧めします。

〔たとえば〕 法学部を卒業しました。国家試験に合格して天中殺で弁護士になったとすれば、弁護士として従事するなかで、よくないことが自分の身に及んで、弁護士として存続できない状況に陥ることもあり得ます。それゆえ弁護士にならないほうが運はよいといえます。

〔たとえば〕 天中殺のときに医学課程を専攻して卒業後に医師免許も取得して医師になりました。それで医院を開業しても順^{じゅんちょう}調にはいきません。

参考：順調〔とどこおりなく物事が進行すること。〕

☞ 卒業するとき、天中殺の時期が重なるということもあります。大学を出て始めて勤めるわけですから一生の門^{かど}出になります。それゆえ将来のためにも時期を外^{はず}して勤めるとよいですね。そうしますと「卒業しても勤めなければいいのか」

ということにもなります。

そうです……勤めない状態にもっていくことです。

〔たとえば〕あと1年ほどで天中殺の期間が終わるなら、^{りゅうねん}留年するとか、大学院へ進むなどして、勉強を継続すればよいわけです。

参考：留年〔学生が卒業に必要な単位を取得せず原級にとどまる。〕

しかし、経済的問題とかで無理ということであれば、自分の専攻学問とは^{まったく}全く関係のない分野に、^{いったん}一旦（しばらくのあいだ）勤めて、天中殺の期間が終わってから、本来の専攻分野の関係に就職すればよいのです。

〔たとえば〕天中殺で卒業して、天中殺で会社に就職したので、本人は辞めようとしたのですが、会社から〔辞めないでくれ〕と懇願されたので、退職しないで会社に残ったとします。

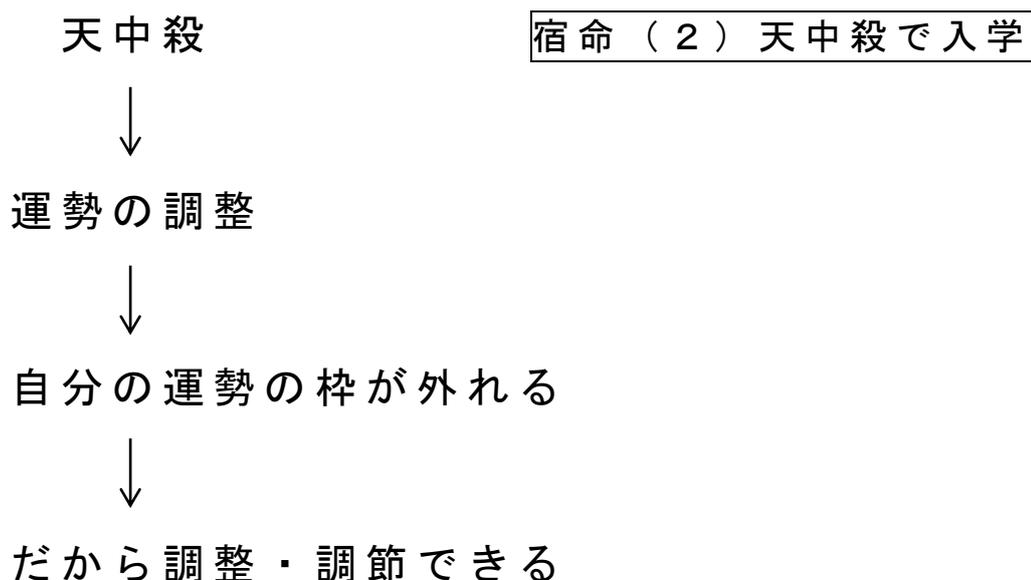
その場合——本人が大した出世もしないで勤続する程度で済めばよいのですが〔健康を損なう〕とか〔交通事故で会社に行けない〕〔地方転勤のたらい回し〕とかの結果が待っているでしょう。

それゆえ天中殺が終わってから〔就職をし直す〕

ことが^{かんよう}肝要といえます。参考：肝要〔非常に重要なこと〕

☞ 天中殺で入学。

大学は専門科目の学びの場ですが、自分の人生の目的としなければ入学は構いません。



天中殺は運勢の調整をするため枠が外れますから、その時期に受験すると意外なことが起こります。

まさかとおもうような大学（学びの場）に合格することがあります。参考：意外〔思っていたことと違う出来事。〕

小・中・高・大学入学でいえます。天中殺で入学したときは、自分が満足のいく先生に出会えない、出会わないということもあります。

それは先生が悪いとかではなくて、天中殺のとき入学した本人の問題です。➡

このことは、自分の運勢が天中殺（不自然・不完全）という時期に学校に入るわけですから、なにかしらの問題が生じます。

そのなかの1つに、満足できる先生に出会えないということもあります。

それは自分の運勢がマイナスの局面に^{そうぐう}遭遇しているための現象です。

⇒ 天中殺は「受け身で物事を進めるのなら構わない」という考え方があります。
それはほんとうなのか……？

受け身というなかに『人に誘われたからやる』ということがあります。

〔たとえば〕 **A** 本人は天中殺で、**B** さんが始める仕事を一緒にやってくれと誘われました。

B さんは天中殺ではありません。

誘われた **A** 本人は受け身ですから、**B** さんと一緒にやってもよいのでは……という気持ちになりますが、やってはいけません。

より突っ込んで、**B** さんから **A** さんに共同でやろうと言われたので、共同で物事を始めることになりました。共同ということは単独ではないわけですから、やった結果として **A** 本人だけでなく、**B** さんにも迷惑をかけることになります。

『誘われてやる場合』そして『共同でやる場合』どちらもやってはいけません。

相手にも迷惑をかけますし、自分が自ら わざわい 禍 を発生させてしまう結果が起こり得るからです。

⇒ 天中殺で家を建てる。

天中殺で家を造るということについては、まずは自分と家の関係を考えないといけません。

家は自分が住むものです。

（通常、家を建てたら自分が住んで、生涯そこで過ごすことになるでしょうから、そのことを考えます）。

〔たとえば〕登山をするとき、夏なので冬登山の重装備でなくて、軽装備で山に登りました。

ところが、登山中に天候が変化して、雨風が叩きつけてきて、急激に気温が低下した状況になると、命の危険にさらされます。

つまり、その状況を家と考えると、その家に住みづらいということを感じられるようになります。

それによって身体を壊す、気持ちが安定しないで精神状態がおかしくなるとかもあるでしょう。

それゆえ、天中殺のときの新築・増築はなんとしても避けて頂きたいのです。

家は自分の生活空間ですから、自分と家族が好ましくない影響を受ける結果にもなります。 ➡

1日8時間は……家で就寝、食事・家族との団欒もあるでしょう。

10時間～12時間は家のなかに居ることになります。

20年間住むとすれば……半分の10年間は我が家で過ごすことになります。

それなのにしっくりしない違和感があるようなら、大変なことです。

天中殺で建てた家が欠陥住宅の場合は、家を建てたこと（欠陥住宅に遭遇したこと）で、天中殺による奇禍きかをかかなり消化できます。

つまり欠陥住宅は自分の家が役に立たないわけですから、運勢的にはプラスゆうり（有利）になります。

プラスになるという意味は、欠陥住宅を建てた結果として、〔例えば・身体みの具合が悪くなる〕というようなことが、出にくくなるということもあります。

また、天中殺のときは欠陥住宅を購入してしまうとか、建築業者を間違えて不具合な家が建ってしまった。ということもあります。これも禍わざわいです。

参考：また〔おなじような状況が少し間をおいて繰り返されること。〕

⇒ 免許を取得する。

免許を取るということは、車に乗る・重機を扱うことが目的です。

車に乗る・重機を扱う、という目的をはずせば、問題はないです。

天中殺で免許を取得して車に乗ると、どのようなことが起るのかと考えます。

買った車に欠陥があるとか、事故を起こしやすいとかです。

免許を取ったのが天中殺ですから、車を運転しても、満足できる気持ちになれないともいえます。

1年のうちに何回かそのような状態・状況がありそのとき事故を起こすとか、怪我をしやすいです。自分が怪我をするだけなら、まだよいのですが、同乗者を事故に巻き込む可能性もあります。

大運天中殺は20年間という長期になります。

そのときはくれぐれも慎重に運転する^{きくば}気配りしか避ける方法はないのです。

そして、車に乗りたくない気分の日には運転しない。その心がけはとても大切です。

⇒ 運勢は自分の考え方で変えることもできます。

おなじ生年月日の人は何万人もいるわけです。

その人たちも天中殺です。

一人ひとりの考え方で……さまざまな人生模様が
できあがります。

運勢は自分の考え方で変えられます。

算命学は「気の学問」です。

〔たとえば〕天中殺で免許証を取ってしまった。

今さらどうしようもないわけです。

天中殺で免許を取得して運転しているとしたら、

『天中殺で免許を取った』ことを、常に自覚して
運転するしか方法はありません。

そのように心がけることで、かなり自分の運勢を
変えられます。

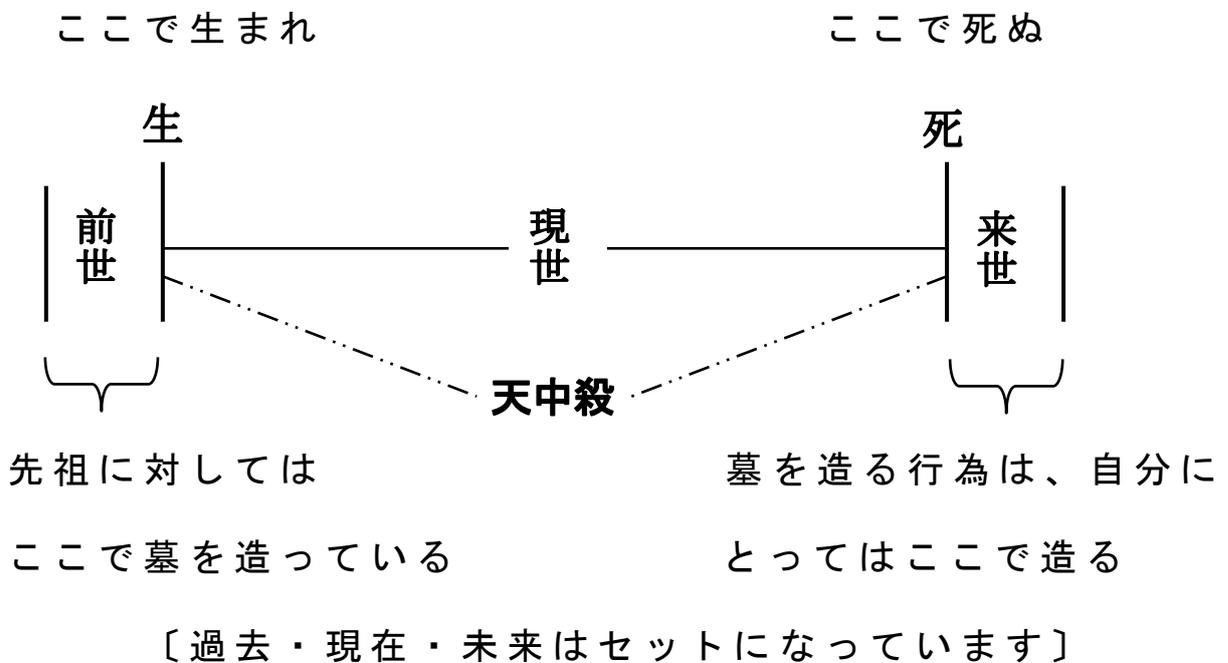
事故などを避けられる。ということも含まれます。

天中殺に生じる現象、そして天中殺の意味を知る
ことでずいぶんと違います。

☞ 天中殺でお墓を建てる。

ここからは現世（此の世）ではなくて彼の世です。
算命学は「来世はある」と考えています。
前世が無くて生まれてくる人はいないわけです。

宿命（3）お墓



墓を造るというのは、自分にとっての「来世」を造っています。先祖に対しては「前世」で造っています。

“お墓参り”といえは、死んだ祖父・祖母、あるいは死んだ両親に対してであり、自分は関係ないようにおもっていても、自分の墓を造る行為というのは「来世」に対して造るわけです。

天中殺でさまざまな問題が起きるのは「^{げんせ}現世の^{あいだ}間」
だけです。

それゆえ、お墓は自分の天中殺で造ってもよいの
です。

^{らいせ}来世の問題ですから、天中殺は関係ないわけです。

来世のことを現世の天中殺でしても構いません。
天中殺に来世のことをしてもよいのです。

天中殺は現世に生きている自分と生きている家族
に問題が^{しょう}生じます。

参考：生じる〔いままで予期しなかつた状態が認められるようになる。〕

算命学のいう^{ぜんせ}前世は「^{かこせ}過去世」のことではありません。

「過去世は人間の^{てんせいりんね}転生輪廻の過程において、この^よ世（現世）に
生まれる以前の過去に生を受けて生きた^よ世」の意。 中庸学

⇒ 天中殺で旅行に行く。

天中殺の期間（天中殺のあいだ）は、長期の旅行とかホームステイのような滞在型はいけません。つまり海外留学をしてはいけません。

自分のストレスを解消するような短期の旅行なら結構です。（しかし嫌な気分のあるときに行くことはないですよ）

旅行に行くのは構いませんが、短期の旅行でも、自分から積極的に出かけて行くのは止めたほうがよいのです。参考：積極的〔進んでことをしようとするさま。〕また、自分のほうから「誰かをどこかへ誘って」というのもよくないです。

天中殺のときは、自分自身が情緒不安定になりますから、どうしても動うごきたくなります。そのなかのひとつに旅行があります。

天中殺のときに、命いのちに危険きけんを及ぼす地域へ行ってはいけません。

天中殺はなにが起こるかわかりません。

天中殺は異常であり不自然・不完全です。

☞ 天中殺で病気になる。

病気になるというのは……運勢を調整・調節する過程においての結果としてもなります。

病気になって回復可能であれば『自分の運勢の姿を調整してくれている』とおもうことです。

調節できなければ死ぬことになります。

病気はなにかの警告でもあるのです。

病気になるのは天中殺に限ったことではなくて、自分の運勢を調整・調節して悪いものを外へ押し出して、元の状態へ戻そうとしている作用と考えています。

☞ 天中殺のときに病気になると困ります。

天中殺のときに病気になると、回復したと思っても回復していません。これはどのような病気にもいえます。必ず後遺症が残ります。

大したことのない病気ならよいのですが、天中殺のときに大病して、医者からは『もう大丈夫』と言われて、本人は治ったつもりでも、運勢は回復していませんから再発します。

天中殺のときには、大病を^{りかん}罹患しないようにするしか方法はないのです。

☞ 天中殺で出会う人・出会った人。

利害関係をもたなければ、天中殺で出会った人と、友人関係になっても差^さし支^{つか}えありません。この問題は“利害関係”です。

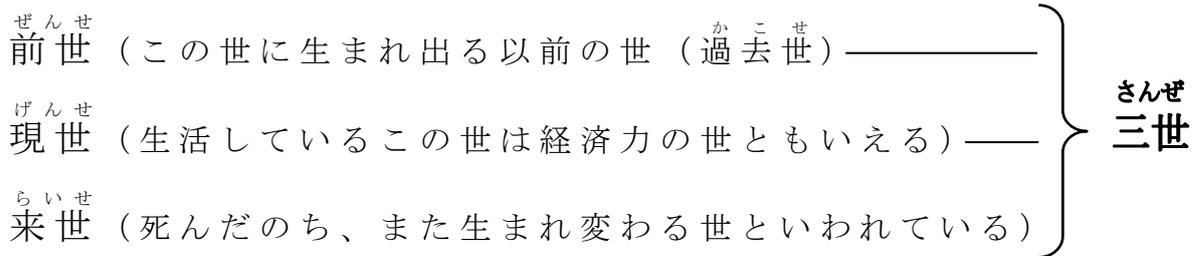
一見して利害関係がないように見えても、後から利害関係が生ずるということもあります。その場合は付き合いを避けてください。あるいは、その人との付き合いを止^やめます。

また「なにかを買ってくれ」とか「売ってくれ」とかいう場合には、付き合いを止^やめます。

利害関係をもたなければ、普通の付き合いをして構いません。ふつうの付き合いですよ。

☞ 天中殺で死ぬ。

どなたでも死ぬと——^{げんせ}現世からあの世へ向かいます。



算命学は、^{しにん}死人の星【天極星】 ^{にゆうぼ}入墓の星【天庫星】
^{あよ}彼の世の星【天馳星】の3つに分けています。

①	②	③
死ぬ	墓	あの世
天極星	天庫星	天馳星

『お墓に入る』というのは、現世と来世の接点という考え方です。 参考：接点〔二つの物事が接する点。〕

天極星は死後にこの世とあの世にあいだを浮遊しながらあの世へ到達します。

お墓はこの世とあの世をつなぐ接点の場所ともいえますから、天庫星が死後に落ち着く場所はお墓です。

死んだ人の遺骨は、この世に造られたお墓に入ります。

お墓参りは死者とのふれあいに^{もう}詣でるといことです。その接点が一般化されているのは、お彼岸の中日です。お彼岸はこの世とあの世の接点が1番近づいていると考えています。

「お彼岸のお中^{ちゅうにち}日」は（年に2回）まわって来ます。

☞ 天中殺で他界しますと、死^し後^ごの肉^し体^ごから^{はな}離^れた^{れい}霊^{こん}魂^んが^ふ浮^{ゆう}遊^{れい}霊^{れい}にならず……あ^たの^ど世^つへ^つ辿^り着^くこと^ができ^るのか“あやふや”になります。

ご自分の天中殺で他界しないで頂きたくおもいます。

参考：あやふや〔あいまいでしっかりと定まらないさま。〕

【初年】 66 回目【天中殺の心得（4）】 終わります

🔍 55 回目から「天中殺」の本質的な特徴を説明してきました。

66 回目は【初年】最後の科目です。

1 回目から 66 回目まで長いことありがとうございました。

【初年】の上のクラスは【研究専科】です。

【研究専科】から（授業料）をいただくようになります。

ホームページで授業案内（PDF 黒色）を御覧ください。